

サツマイモ

品川区立荏原西保育園（東京都品川区）

1 芋苗を植える時期が近づき、さつま芋を育てる為には、どんな場所で育てるといいか、どんな土がいいかなど話し合う。 【芋畑の雑草とり整備】 5歳児：4月

昨年経験した事の中から色々考え、子どもたちは「お芋は、畑で育つんだよ」「砂じゃなく、土で育つんだよね」「広い場所で育つんじゃないの」「草が生えていたらだめなんだよね」などと発言していた。

昨年、11月にお芋を収穫してから約半年振りに行く中学校の畑は、雑草が生い茂り、子どもたちの口から思わず「すごい！」「土が見えないよ」の声が出ていた。草を取り始めてすぐに、色々な虫を発見し「これは何の虫だろうね？」「これは、何の幼虫かな？」「この虫見たことあるよ」「あつミミズもいた」と虫観察に熱中する子どもたちの姿があった。黙々と草をとっている子どもから「なんか変な匂いがするよ」の声。ここで一斉に子どもは変な匂いのする草を探し始める。その草は「どくだみの草よ」と保育者が知らせると「聞いた事ある」という子が何人かいた。「ホントくさいね」「他の草はくさくないのにね」と不思議そうに話す子もいた。草を抜いて畑の土が見え、畑らしくなってくるのを喜ぶ子どもたち。

知的な好奇心・学んでいること ・色々な虫がいる事や草にも匂いがあり、色々な種類がある事を発見する

2 芋畑の整備を終えた次の週、園庭で種芋を植えて芋苗を育てる話をした。 【種芋植え】 5歳児：5月

“芋の苗ってどうやって育つんだろうね？”の問いに「種から」や「自然に土から」などの声が聞かれる中、種芋を出すと「あっ！焼き芋！」の声が多数でる。これは、種芋である事を話し、この種芋のどこから芽が出て苗になるかを話すと興味津々の表情に変化する。

種芋を自分で触り、感触を楽しみながら園庭に出る。種芋は土の中から栄養をとるので土の中にしっかり埋める事を話すと納得するように頷いていた。プランターの中に5本ずつ埋めていくのだが、これに悪戦苦闘する姿がみられる。浅く埋めているせいか、種芋が見えるため、グループ内で「あーでもない」「こーでもない」と言い合う。「土をもう少し深く掘ったらどうかな」という保育者の声かけに、“そうか”とばかりに再度、種芋を掘り出し、土を深く掘って埋める事ができた。プランターを太陽の光がよく当たる場所、あまり当たらない場所の二ヶ所に設定し、どちらの苗が早く出てくるか観察する事にした。作業を終えて戻ると「楽しみだね！」という子どもの声が聞かれた。

知的な好奇心
学んでいること

- ・種芋の役割、意味
- ・種芋をどうやって土の中に埋めたいか考える
- ・苗がどのようにでてくるのか期待する
- ・プランターの位置（日が当たる場所、日が当たらない場所）で苗の育ち方はどう違うか比較しようとする



3 苗を植える時に気をつける事を確認する。 【芋苗植え】 5歳児：6月

「苗は大切に扱わないとすぐに茎が折れてしまう」「土に植える時には、茎の下の方を持つ」「土に植える時には斜めに植える」ことを知らせると、子どもたちは真剣な表情で聞いていた。

畑に着き、畑を温めるために黒いビニールをかぶせてある畝の前に一人ずつ静かに立つ。前回来た時に、なぜ黒いビニールをかぶせてあるのか聞いて触ったり、見たりしていたので、土が温まっているか大丈夫か！と確かめるように畝を触る子どもの姿が見られた。

一人2本ずつ植えた。1本目は緊張しているのか、ゆっくりゆっくりそっと植え、2本目は、少し余裕ができてさっと植える子どもたち。2本とも植え終えた後、ほっとした子どもたちの表情が印象的だった。「緊張したね」「なんで苗を斜めに植えるのかな」などの声がチラホラ聞かれた。

斜めに植える理由を園長先生に「根が生えやすいように」と教えてもらい納得したようだった。後日、園庭の畑に4歳児が苗を植える時に5歳児の子達が「斜めに植えるんだよ」と教える姿がみられた。

知的な好奇心
学んでいること

- ・黒いビニールがかかった畝を触る姿
- ・芋苗を大切に扱っている姿
- ・なぜ、苗を斜めに植えるのか不思議に思う気持ち



4 植えた種芋から伸びた苗を園庭の畑に植え替える。「葉っぱの血」 【種芋から苗を収穫】 5歳児：6月

プランターに植えた種芋から十分に育った苗の先端を持ち、上に伸ばしてみると、自分の背丈ほども伸びた苗を見て、「こんなに大きかったんだ」とどの子も驚いている。普段横に生えている苗がこんなに伸びているとは思いつかなかったのだろう。ハサミを使って、適当な長さに切る。苗の切り口を見たときから、子どもたちの苗に対する好奇心が芽生える。

保育者：「みんな、切ったところはどうなってる？」

A 児：「あ！切ったところから白いものが出てきたよ」

B 児：「ほんとうだ。なんだろう...」（ついA児は、白い液が出たところを鼻に持っていき、匂いをかいでいた。）

保育者：「さわってみたら？」

A 児：「うわー。なんだかべとべとしてる。あ！指がくっついちゃった。接着剤みたい！」

B 児：「これなにかなー？」

そこで、よく観察できるように虫眼鏡を用意した。子どもたちは、「この白いものが何か？」「切り口がどうなっているのか？」「葉っぱがどうなっているのか？」よく観察していた。しばらくすると、葉がしおれてきた。

C 児：「先生ー。葉っぱがしわしわになっちゃった！」
 しばらくすると子どもたちの苗からも出なくなり、不思議がっている。
 保育者：「ねえ、さっきの白いものはどうなった？」
 D 児：「あー！白いものがもう出てない！」
 B 児：「本当だ、私のも出てないよ！先生ー。葉っぱがしわしわになってきた」
 A 児：「切ったから元気がなくなったんだよ。栄養がなくなったんじゃない？」
 保育者：「みんなも怪我をすると、血が出るよね」
 A 児：「あっ！わかった！あの白いのが葉っぱの血みたいに栄養とかを運んでいて、それがなくなっちゃったから元気がなくなったんだよ！」



知的好奇心
学んでいること

- ・横のものを縦にして、自分と比べることで、大きさを測る
- ・苗を切ったことでの変化を、視覚・嗅覚・触覚を使って観察している
- ・未知の白い液体を、自分の経験から推測して言葉にしている
- ・1次的変化がもたらしたことで、2次的変化に気づく(白い液体が出たことで、葉がしおれた)
- ・葉がしおれた事と保育者の助言から、白い液体が大切な物だと気づいている

5 「葉っぱ、食べられてるよ！」

【観察】

5歳児：8月

夏休みも終わり、徐々に芋畑に出かける。歩きながら「ぼく！おいも好きなんだー」「おいしいんだよね」「でもまだ出来てないんだよね」と会話が弾んでいた。
 芋畑に着き芋の葉を見るなり、「ねー！虫にいっぱい食べられているよ」とM児「えー本当だ！」と言いながらそばにいた数人の子が葉っぱを覗きこんでいた。
 「どんな虫が食べたのかな？」と保育者が声を掛けると子どもたちは虫探しを始める。
 「バツだよ」とA児「蚊もいるよ」とH児、葉っぱは虫に食べられているけど、“お芋はどうなっているのだろう”と畑の一部分を掘って観察する事にする。
 芋の葉を掻き分け畑に入ると、「大きな団子虫だね」とN児。「カタツムリを踏んだよ」とT児がびっくりしたように言う、よく見るとナメクジが沢山いた。
 そんな畑の中で畝にかかっているビニールを破き、太くなった苗の下をシャベルで掘り出す。思うように掘れないと手で掘り始める「あったよ！」と嬉しそうな子どもたち。M児の手の大きさと比べ「大きいね！」と喜んでいる。
 種芋で採った苗を掘っていたグループは「先生、掘っても、掘っても出てこないよ」とがっかりした声で言っている。そのうち苗まで抜けてしまうと「先生抜けちゃったよ」と残念そうな声をあげていた。生長して大きくなった芋、育たないで苗が抜けてしまった芋など違いがあることを虫の沢山いる畑で気づいていた。収穫までにどのくらい大きくなっているか、沢山出来るか期待をもたせて芋畑を後にした。



知的好奇心・学んでいること

- ・芋の葉を食べた虫はどんな虫か
- ・芋はどこになっているのか
- ・芋はシャベルで掘るより手のほうが掘りやすい

6 畑の探検

4歳児：5月

3歳児

年長児の芋苗の後を追って、4歳児も芋畑のある中学校へ行く。年長児が畑を見終わり、4歳児だけになる。
 保育者：「あれー？なんで黒いビニールがかかっているのかな？」
 A 児：「なんでかな？」
 B 児：「焼き芋になるんじゃないのかな？」と答える。
 全員：畑の中に入り、畝の小道を歩く。
 C 児：黒い所に触れて、「黒いところ温かいー！」
 D 児：「本当だ！」と次々に手を当てて確かめている。
 保育者：「年長組さんが畑を作ったから、知っているかも知れないから聞いてみようか？」と話しながら、中学校にまだいる年長児の元へ行く。保育者が年長児に「土の上に黒いものが、かかっていたけどどうして？」と尋ねる。
 年長児 A 児：「土を温かくして、お芋の苗を大きく育てるんだよ」
 年長児 B 児：「お芋が早く大きくなるんだよ」
 保育者：「よく知っているね」と会話をしながら、芋畑を後にした。

園庭の花壇を掘り、だんご虫探しに夢中の3歳児は、花壇を芋畑にし苗を植えて様子を見ているが芋の苗よりだんご虫のほうが気になる様子。中学校の空き地を借りて4・5歳児で芋畑を作っているので芋苗の様子を見に行く。苗だけがずらりと並んでいるので不思議そうに「お芋ここにあるの？」と聞いてくる。「だんご虫いる？」とA児。やはり気になるのは、だんご虫のようだった。園庭の一角にプランターに種芋を植え、苗育てをしてより興味を持たせるように世話をしている。「いつ葉っぱが出てくるのかな？」と楽しみにしている子どもたち「早く焼き芋でてこないかなー」とM児。プランターから出てくるのは焼き芋だと思い、楽しみにしながら一生懸命水あげをしていた。「出てくるのは焼き芋じゃなくて生の硬いお芋なのよ」と知らせると「・・・」「なんで？」といった表情だった。

みどころ

サツマイモの栽培を通して、様々な「不思議」や「疑問」を感じることができます。どくだみのおい、サツマイモの「白い血」など実際に触れて感じるができるので、思わず出る言葉も共感でき、みんなに伝わり、共通の体験として残っていきます。<種芋や苗をどのくらいどのように植えるのか><芋から切ってしまった苗はどうなるのか><どうして苗を斜めに植えるのか>ということが、育てるために大切なことであると分かり、考えたり確かめたり納得したりして進んで取り組んでいます。